

(様式2)

## 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・52〉	いわき市立	湯本第三	小学校
〈実施日〉	平成 28 年 4 月 19 日 ( 火 )			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は ( ) に教科等を入れてください。			
1 理科	② 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ( )	
〈実践内容〉	<b>1 放射線について知っていることを話し合う。</b> <ul style="list-style-type: none"><li>まずは児童が放射線についてどのように理解をしているか話し合わせた。クラスには実際に避難区域からの転入生もあり、放射線に関して怖いというイメージや病気になる、それに原発事故などというキーワードが出された。逆に校庭のモニタリングポストについては出てこなかった。子どもたちの中に漠然とした印象として「放射線は怖い・危険」という印象が強いこと、反面、モニタリングポストなどは日常化しすぎてかえって意識していないということが分かった。</li></ul> <b>2 「放射線ってなあに？」を活用した授業</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「放射線ってなあに？」は児童でも分かりやすいように、マンガやイラスト、写真などを使って、放射線についての理解が図られるようになった資料である。資料に沿って授業を行った。放射線がいつからあるのか、だれが見つけたのか、放射線とはどんなものなのか、健康への影響、未来に向けてどのように考え行動すればよいかについて、子どもたちに自分の考えを発表させたり、ペア同士で話し合わせたりした。特に、児童の実態から体への影響の部分を中心に話したり考えさせたりするようにした。放射線が医療や品種改良などに役立っていることなどがしっかりと理解できるよう意識した。</li></ul> <b>3 まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>授業を通して考えたことや感じたこと、不思議に思ったことなどを発表させた。はじめは危険という印象が目立ったが、自然界に存在することがわかった、医療に役立っていることについて理解が深まった等の意見が多く出された。</li></ul>			
〈成果〉	○放射線に対する漠然としていた理解が、資料の活用や話し合いを通して明確になった。 ○放射線に対する意識が低かった児童が、意識しながら生活していかなければいけないと感じるようになったと考えが変容していた。避難している友達に寄り添う考えが見られるようになった。 ○資料を活用することで、放射線についての理解が深まった。教師主導の話では、難しくなりすぎてしまい、今回のようにできなかったと思われる。			
〈課題〉	○複数の資料を準備して、多面的に理解が深めるようにする必要がある。環境省から出されている「調べてなっとく放射線」や福島県教育委員会の「放射線等に関する指導資料」等、児童の実態に合わせて活用していきたい。 ○放射線に対する意識に大きく差が出てきていることが今後の大きな課題。			
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 ( 和泉 耕平 )	学校電話番号 ( 43-2442 )			

### 【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。  
(送信先: [kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp](mailto:kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp))